

平成27年

自由民権史跡めぐり

(中野、川辺、小高地区)



玉川村大字川辺字館にある曹洞宗金波山円通寺である。雲霧城主板橋家の菩提寺であり、明治時代は川辺会所が置かれたり、演説会が開催されたりした。住職板橋公学は石陽社員であった。

『見学場所及びコース』 12月6日〈日〉

『案内者』 田子国夫氏、石陽史学会代表鈴木吉重氏、石陽社顕彰会員塩田三千男氏、有賀究氏・渡辺実氏

石川町商工会駐車場	—	柄沢国一居宅跡（二平光信・二瓶市重郎紹介）	—	吉田正雄居宅跡	—	吉田
13:00		13:15		13:35		14:00
正雄妻及び子貞雄・須藤喜左衛門墓地	—	金波山圓通寺・板橋公学墓地	—	吉田正雄隠居宅跡	—	
		14:30		15:00		
鈴木家（板橋公学）・矢部吉重墓地	—	大雷神社・岩谷巖居宅跡	—	石川町商工会駐車場		
15:10		15:30		16:00		

石陽社顕彰会

中野地区の民権家

【柄沢国一】

石川町大字中野字八斗蒔 63 番地に居住していた。嘉永 6 年 12 月 1 日新潟県刈羽郡太郎丸村（現 ）に生まれた。明治 15 年 1 月 8 日、29 歳で死亡。

同地域出身で中野村聖徳寺の住職（第二五世）をしていた柄沢秀珊、智戒夫婦の養子となる。秀珊和尚の養子であり、弟子として、少年時代聖徳寺に入った。父秀珊亡き後、寺を継いで第 26 世となったが、明治 5 年学制発布されると、明治 11 年 5 月小高小学校の教員となった。そして、その後、笠間一庵の跡を継いで中野塩沢小学校に迎え入れられ、同 15 年まで勤務した。

明治 9 年 3 月 15 日、22 歳の時中野村 5 番組什長に石川会所より任命された。

明治 11 年、有志会議が石陽社に改称されると社員になる（有志会議の時から加盟していたかは不明）。

現段階では、自宅火災ということもあり、国一の活動を示す資料が発見されず、その詳細は不明である。

【二平光信】

石川町大字中野村に弘化元年（1844）に生まれた。居宅は中野字竹下 27 番地。

代々神官で、明治 9 年 3 月南須釜村用掛になり、11 年 1 月には石陽社員となった。

神官としては 12 年 5 月より、石都々古和気神社、近津神社、塩釜神社、和久八幡神社、王子平八幡神社、新屋敷八坂神社、沢井村八幡神社、赤羽村八幡神社、新屋敷村八幡神社の神官を務めた。これらは吉田光一が務めていた神職で、12 年度当時、光一は「石陽社社務のため各地を奔走」していたため、二平に代わったとみられる。

13 年（1880）2 月、神官を務めながら中野・塩沢村の戸長、同年 5 月中野村小学区学務委員に任命された。

石陽社の中心人物吉田光一とは、同じ神官ということもあり、つながりが深かったように見受けられる。

光一が明治 12 年から 13 年にかけて、国会開設のための奥羽地方誘説の資金調達のため互いに自宅を訪ね合っている。

石陽社解散（13 年頃）後も石川地方の人々は自由党会議を設立し、国会開設の活動を続けた。光信は中心の一人として活躍していた。14 年 10 月に開催された自由党会議では、光信は国会開設同盟者の募集で中野・塩沢村を担当した。

同年、中央で自由党が結成されると、石川の人々も自由党福島部石川組として活躍した。

22 年野木沢村が誕生すると、26 年から 31 年まで村長を務めた。

大正 4 年（1915）72 歳で没する。

【二瓶市重郎】

近世の中野村庄屋であり、弘化 2 年（1845）生まれ。居宅は中野字水内 55 番地。

明治 5 年に磐前県庁より中野村長市重郎に小 13 区副戸長が任命された。同 6 年、7 年、9 年と中野村伍長、塩沢村伍長、中野村用掛、塩沢村用掛が任命された。

石陽社が結成されると、社員となる。二瓶家には 12 年 1 月 25 日付けの「岩代国福島駅福島新聞社株式仮券状（社長河野広中ほかより二瓶市重郎宛）や同 25 年の「自由党報号外」が保管されている。

明治 14 年、15 年、17 年には石川郡連合会常任委員に当選、20 年に石川郡連合会議員に当選、22 年野木沢村が誕生すると初代村長に当選した

大正 5 年（1916）6 月、69 歳で没す。

【川辺地区の民権家及び史跡】

(1) 吉田正雄・・別紙

(2) 吉田貞雄

川辺字和尚平。吉田正雄の子、石陽社員、川辺村用掛（明治11年時）

明治30年3月5日没

(3) 矢部（野）吉重

川辺字宮ノ前。神官、石陽社員

(4) 円谷一郎

川辺字宮ノ前178。石陽社員、自由党员

明治 年、中川辺伍長

(5) 矢吹伝四郎

川辺字武道340。石陽社員

明治15年11月石川郡連合会議員となる

(6) 味原庄吉

川辺字和尚平。石陽社員、

(7) 須藤喜左衛門

川辺字館78。旧庄屋、石陽社員、自由党员（明治17年党员名簿）

明治15年11月福島・喜多方事件で、逮捕投獄される（須藤家文書）。明治15年12月29日の石川警察署長椎原国太の県令の報告では、「作28日右拘引状を發し巡查し出張せしめ候処、須藤須藤喜左衛門、江藤長安、関根常吉不在につき拘引すること能わず」とあるので後日逮捕されたものと思われる。

加波山事件で警察に拘引、白河警察署に引致、取り調べを受けた。

家族は差し入れ、宿下願を提出した。

明治35年1月3日没

(8) 矢部伝三郎

川辺字和尚平145。石陽社員

(9) 白旗半治

川辺字中沖96.石陽社員

(10) 板橋公学

川辺字館。僧侶、石陽社員、教員

鈴木大吉（天保2年川辺村庄屋）5男、板橋家の養子となる。兄弟に医師鈴木俊安、いここに衆議院議員鈴木万次郎がいる。

曹洞宗金波山円通寺第27世住職。子大悟、孫学

明治6年から14年まで川辺校教員、そして、同7年から9年まで曲木校の教員も兼務していた。明治9年福島第2師範学校卒業、訓導となった。明治11年の石川小学校学校日誌によれば、公学は石川小の定期試験立会人として幾度も出張していた。

明治11年、岩谷巖氏を石陽社に勧誘、明治11年11月17日、石陽社臨時会で第3組幹事に吉田正雄、書記に板橋公学、大竹義明が選挙された。

同14年10月20日、石川郡同志千余名の惣代となり、国会開設期成同盟募集を進めた。

明治29年10月3日没。

(11) 野崎重三郎

川辺字館。石陽社員、自由党员（明治17年党员名簿）

(12) 板橋光額（公学か）

川辺字 。明治17年発生の加波山事件で、須賀川警察署に拘引、取り調べを受けた。

(13) 矢部親（新）吉

川辺字 、演説会弁士

明治15年4月9日、母畑村字樋田、渡辺忠兵衛宅自由演説会で、「天下ノ公衆人民ニ告ク」と題して演説。

(14) 磯目峯八

明治16年9月28日、仙台で開催の東北会景況会員（福島県4人のうちの1人）で出席。

(15) 磯貝要吉

川辺村、馬喰

明治16年1月9日、探偵書、吉田正雄逃亡探偵書「秩父郡横瀬村馬喰渡世長嶋勘平方二一時逗留、磯貝要吉ナル者と談話シ、午後4時頃横浜へ立超」とある。

(16) 須藤兼松

川辺字

明治17年の加波山事件で9月27日引致、須賀川警察の取り調べを受ける

(17) 磯目角次郎

川辺字宮ノ前100。自由党员

明治20年に政府に提出された吉田正雄ほか106名による「条例改正建言書」の建言書奉呈委員の一人であった。

(18) 矢吹（関根）常吉

慶応2年（1966）母畑村字竹ノ内関根茂八の子として生まれた。医師を目指し、石川の医師で自由党员であった川口元海のもとに弟子入りした。更に、吉田正雄や吉田光一、川原忠節らとも交流、医学や国の政治、外国の政治情勢を勉強し、民権運動に傾注していった。

石川地方で演説会が盛んであった明治15年には17歳ながら青年弁士として主催者として活躍していた。7月29日の南町近内勝蔵宅での演説会では、演説中「弁士中止」を命ぜられ、集会条例違反で逮捕された。未成年のため1等を減じ罰金10円に処された。

明治15年11月に起きた福島・喜多方事件では12月22日、平で逮捕され福島県獄にいた川口元海の手紙を家族に届け、また、差し入れをおこなうなど同志のため奔走した。

常吉も平で逮捕され、石川警察署に護送、若松に護送された。福島・喜多方事件で福島県内の自由党は壊滅的な打撃を受けたが、常吉は明治17年8月に開催された仙台での東北会に出席した。

同17年4月19日、泉村大字川辺金波23番地、矢吹柳助の養子となり、テウを結婚した。

同17年に発生した加波山事件では警察の取り調べを受けたが逮捕はされなかった。

そして、明治20年11月30日、吉田正雄ほか106名による「条約改正建言書」が政府に提出されていた。常吉は磯目角次郎と建言書奉呈委員であった。養父柳助も106名の一人として名を連ねている。

常吉は養父母、妻に先立たれ、大正8年実家の関根家（母畑字竹ノ内17）に戻り、大正13年（1924）2月4日

59歳で没。母畑浄光寺に眠る。

(19) 曹洞宗金波山円通寺

川辺字館

元亀元年（1590）円通寺建立、板橋房好開基、開山石川長泉寺7世久山大和尚。

天正18年（1590）板橋掃部助高好、石川氏と共に正宗に従い移る。

明治5年5月、県の出先機関として川辺会所が本堂に置かれた。区長は吉田正雄であった。

同9年8月福島県が誕生、福島県第21区と改めた。

明治15年（1882）3月10日、河野広中大演説会開催され、盛会であった。同年4月27日には河野広中が出席し、懇親会を開催、会場は不明であるが円通寺の可能性が高い。

【小高地区】

(1) 岩谷巖・・・別紙

小高字西屋敷 90-1、神官（大雷神社）、石陽社員、小高小学校教員
・大雷神社

(2) 石井清助

小高字西屋敷 26、石陽社員

(3) 小山田三益

小高字向久保 85、医師、石陽社員

(4) 溝井健之助

小高字東耕地 16、石陽社員

(5) 添田周次郎

小高字丑久保 21、第二嚶鳴社員、改進黨員

(6) 天野市太郎

小高字西屋敷 79

三春の人。明治 17 年加波山事件に参画、同 19 年 10 月 3 日無期懲役（19 歳）投獄。
北海道空知集治監を同 27 年特赦で出所、後日本赤十字に入社、明治 40 年当時、福島県支部
石川郡委員部で勤務、長男を泉村で出生。